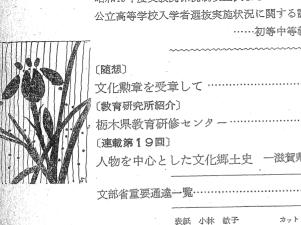
文部時報

第1161号

昭和49年2月

	学術振興の一観点・・・・・・・・・・伏見 康治	2
	▷座談会◁	
	独創的研究を育てる	10
	(出席者) 茅 誠司・渡辺 格・井深 大	
	木谷 要治・(司会) 木田 宏	
	●科学の先端を切り開く研究の動向 ●	
	エネルギー資源とその開発研究の動向上之園親佐	31
	地球科学の発展	39
	現代生物学の歩み秋田 康一	47
	国際学術交流の動向吉識 雅夫	53
	<解説>	
	国立民族学博物館の構想梅棹 忠夫	58
	<現地ルポ>	
	筑波山麓に人類の壮大な夢をさぐるやなせ・たかし	68
• ,	現似田庭に八魚い在バルタとと、 。	
	「文部省の窓」	
	昭和49年度文教関係税制改正決まる・・・・・・大臣官房総務課	₹ 64
	公立高等学校入学者選抜実施状況に関する調査結果について	
	公工高等子校八子有医放天旭代加口內分。加至加尔	₹ 66
T		
l	「隨想」	
	文化勲章を受章して	c 73
	•	
	『教育研究所紹介』 - 栃木県教育研修センター牛久於蒐覧	ž 77
	〔連載第19回〕	絮 83
	人物を中心とした文化郷土史 一滋賀県一中島 湯	N 00
51	文部省重要通達一覧	95
	人印1里女但任 兒	



— 58 **—**

立民 族 学 博 0 想

主としてその学術的意義に 1

四〇年の夢

なっ 調査会議の設置以来、四年目の実現である。 八年度には創設準備室がおかれて準備に当たっていたものである。 昭和四六・四七年度の二か年にわたって調査が行われ、四次学博物館が、昭和四九年度にいよいよ創設されることに

である。 日ついにその実現をみるにいたったものである。 い道動がつづき、文部省そのほか関係各方面の理解によって、今十○年のことなのである。それ以来、民族学関係者たちの根気の もっとも、 四年どころの話ではない。じつに、四〇年もかかっているの 渋沢敬三先生らによって最初の計画がたてられたのは、昭 この博物館の設立計画が始まってからの年月を通算す

設立の場所は、 万国博覧会記念公園内が予定

> なえ、 なるが、 ものと願っている。 る。五○年度中に完工し、五一年度には、開館のはこびになりたい が、大きな展示室のほかに、収蔵庫、 門)と情報管理施設をそなえ、人員は一三三人という規模のものに されている。完成すれば、 建築は、 床面積三四、○○○平方メートルほどのものになる予定であ 四九年度はとりあえず人員三〇人で出発するこ と に なろ いま黒川紀章氏の手で基本設計がすすめられて いる 事務局のほかに五研究部 (二一 研 研究室、 セミナー ・室などをそ

にする。社会教育上、 待されるが、ここでは話題を学術研究上の意義に限って述べること 校教育のうえでも、さまざまな効果をあげることができるものと期 たものだけに、完成すれば、学術研究上も、社会教育上も、 この博物館は、 四〇年もまえから、 あるいは学校教育上の意義については、 その実現がまちのぞまれてい また学 べつ

の機会に述べることにしたい。

世界文化の研究センター

じ内容のものと考えて頂いてよい。 人類学という名のほうがとおりがよいかもしれない。だいたい、同も耳なれたものではないというせいもあろう。今ではむしろ、文化 思われる人もあるようである。それは、民族学という名が、 民族学博物館というと、なにか非常に特殊なものができるように 必ず

てるとは、 か、そのほうが問題なのである。 日本ではなぜいままで民族学の博物館をたてようとしなかったの のが当然であって、ないほうがふしぎなのである。だからむしろ、 かと、ふしぎに思う人もあるかもしれないが、じつはそ うで はな 数少ない国立の博物館の一つとして、とくに民族学の博物館を建 ョーロッパやアメリカでは、民族学・人類学の博物館は、ある 日本国家は民族学の振興に特別の力こぶをいれているの

化の博物館である。地球上の自然の多様性を一堂に集めたものが自 る基礎資料が集められているところである。それはいわば、人類文 ずである。 に集めた民族学博物館が存在することは、少しもふしぎではないは 然科学博物館であるとすれば、人類文化の多様なるありさまを一堂 民族学の博物館というのは、世界の諸民族の、社会と文化に関す

ている。しかし、 ん、従来から個別的・部分的には、大学や研究所で研究は進められ 地球上に人類が展開してきたさまざまな文化については、 たとえばメキシコの文化についてしりたいと思え もちろ

> のである。そのような要求に全面的に応えようというのが、この国 では比較的よく知られていると思われるョーロッパ諸民族について 数の専門家以外には、まったくとざされたままといってよい。日本 かを調べるには、 立民族学博物館なのである。 その具体的な生活ぶりということになると、意外にわからない どうすればいいか。あるいは、アラブの社会はどうなっている どうすればいいか。それらの道は、 現実的には少

えば、 うものが、すべての人文科学の基礎学なのだといってもよい。たと は広く、すべての人文科学に及ぶと考えてよい。実は、民族学とい 館であって、関連するところは、民族学だけにかぎらない。すそ野 実物によって、調べることができるからである。 各民族に固有の、風俗、慣習、生活様式などを、具体的に、 大きい利用価値をもつはずである。文学作品のなかにあらわれる、 こういう趣旨のものであるから、これはいわば世界文化研究博物 外国文学の研究者にとっても、このような博物館は、 非常に または

容で完成すれば、もちろん、この種の博物館としては、世界で第一 級のものとなるだろう。そして、それは日本の民族学・人類学のメ まく機能することによって、人類諸民族に対する日本人の認識は飛 センターになって行くものと考えている。このような博物館が、う たような事情から考えて、それは日本における人文科学研究の一大 ッカともいうべきものになることは当然であるが、同時に、今述べ この国立民族学博物館が、 世界文化の研究に対して大きな貢献をすることが いま構想されているとおりの規模と内

ぱら成果だけの輸入に努めた、 あったのだが、日本は、そのほうにはあまり注意をはらわず、 間の背景には、 努力が集中されていたからであろう。しかし、そのヨーロッパの学来、ヨーロッパの学問の成果だけを輸入し、それに追随することにいうところには向かわなかったのである。それは一つには、明治以 特定の地域の文化に集中して、 わなければならないだろう。 公私立の諸大学においても、 学の研究は、まったくないがしろにされてきた。国立大学はじめ、 ったくふしぎなことだが、日本では今まで、 必ずしも言えないが、その関心はヨーロッパあるいは極東の 世界の諸文化についてのおびただしい資料の蓄積が 研究者たちは、不当な冷遇をうけてきたとい 民族学や人類学の講座が開設されるこ 人間の文化に関する研究をおこたった とも言えるであろう。 ひろく人類の文化一般の比較研究と 民族学や文化人類 もっ

ならないということの意味は、一つにはこういうところにもある。 ならないということの意味は、一つにはこういうところにもある。 が、このごろのように密接になってくると、もはや輸入された一般理論では間に合わなくなってきた。どうしても、それぞれの民族理論では間に合わなくなってきた。どうしても、それぞれの民族理論では間に合わなくなってきた。どうしても、それぞれの民族の、社会と文化についての具体的な、そして詳細な知識を、いそいの、社会と文化についての具体的な、それぞれの民族の、文化的な関係ところが、世界の国ぐにの間の、政治的、経済的、文化的な関係ところが、世界の国ぐにの間の、政治的、経済的、文化的な関係

世界の諸文化のうち、ある特定のものについては、日本の研究は世界の諸文化のうち、ある特定のものについては、日本の研究は世界の諸文化のうち、ある特定のものについては、日本の研究は世界の諸文化のうち、ある特定のものについては、日本の研究は世界の諸文化のうち、ある特定のものについては、日本の研究は世界の諸文化のうち、ある特定のものについては、日本の研究は世界の諸文化のうち、ある特定のものについては、日本の研究は世界の諸文化のうち、ある特定のものについては、日本の研究は世界の諸文化のうち、ある特定のものについては、日本の研究は世界の諸文化のうち、ある特定のものについては、日本の研究は世界の諸文化のうち、ある特定のものについては、日本の研究は

々の大学のワクのなかでやれることではない。 がたかいことはいうまでもない。民族学資料についても、 センターを一つ作って、そこに集中するほうが、 じようなものを、それぞれ少しずつ収蔵するよりも、 から言って、 そのような大学附属博物館も悪くはないが、今日の学問の進展状況 では東大の総合研究資料館以外は、その種のものは皆無に等しい。 イ・ミュージアムがあって、その仕事に当たるべきなのだが、 用がはかられることがない。本当ならば、各大学にユニヴァ なった資料類は、管理システムの不備のために、たちまち散逸した ば先端的な研究は行われるが、研究がすんでしまうと、その材料と では、不都合なことがはなはだ多いところである。そこではしばし とくに、大学というところは、資料の収集と保管、利用という点 共同の資料センターを持つべきであろう。 国立民族 学博物館 全国の国立大学の共同利用機関となっているのは、 あるいは逆にどこかへ死蔵されてしまったりして、 もはやそういうことでは間に合わなくなっている。同 特定大学の殻を出 はるかに利用効率 大規模な資料 蓄積と再利 もはや個 日本 シテ

由からである。

スだと言われるのも、当然のことというべきであろう。 それは、個人あるいは個々の研究機関ではとうていもてない。 たれは、個人あるいは個々の研究機関ではとうていもてない。 収集・保よりはマシという程度のものでは、設立する意味がない。 収集・保よりはマシという程度のものでは、設立する意味がない。 収集・保よりはマシという程度のものでは、設立する意味がない。 収集・保まりはマシという程度のものでは、設立する意味がない。 収集・保まであるう。 国立民族学博物館が、文科系におけるビッグ・サイエンるだろう。 国立民族学博物館が、文科系におけるビッグ・サイエンスだと言われるのも、当然のことというべきであろう。

市民の大学

る。 が完者だけではなく、国民のすべてが、これを利用できるのであとは、いうまでもない。これを利用するものは、大学に籍を置くともに、博物館として市民のまえに広く公開されるものであることもに、博物館として市民のまえに広く公開されるものであるが、それと国立民族学博物館は、国立大学の共同利用機関であるが、それと

衆に接する場面を持つということは、つねに新鮮な刺激を外から受衆に接する場面を持つということになる。国立民族学博物館では、成果の反映ではない、ということになる。国立民族学博物館では、成果の反映ではない、ということになる。国立民族学博物館では、がみられるという。研究は展示と無関係に進められ、展示は研究のがみられるという。研究は展示と無関係に進められ、展示は研究のがみられるという。研究者は、原門家向けの研究活動と一一般に博物館においては、しばしば、専門家向けの研究活動と一一般に博物館においては、しばしば、専門家向けの研究活動と一

の通気孔をもつことができるのである。とである。これは閉鎖的な大学では、とうてい考えられぬ利点であとである。これは閉鎖的な大学では、とうてい考えられぬ利点であけ取ることになって、研究それ自体にとっても、はなはだ有益なこ

をして考えるべきであろう。 市民の前に公開されていると言っても、わたしはこれを必ずしも 市民の前に公開されていると言っても、わたしはこれを必ずといて学習と研究を行うことのできる研究者なのである。現代の博 おいて学習と研究を行うことのできる研究者なのである。現代の博 おいて学習と研究を行うことのできる研究者なのである。現代の博 おいて考えるべきであろう。

水準の向上は目ざましく、ある場合には、専門家を上まわる知識と落差があったかもしれない。しかし、現代の日本では、市民の知的いことではない。昔は確かに、専門家と大衆との間には、かなりのは分からぬものと決めつけるのは、学問の進歩にとって、決してい専門の学者とアマチュア大衆とを画然と区別して、素人には学問

V.∿

ない。

で学識の問題ではなかったはずである。今や、日本社会の構造的変て学識の問題ではなかったはずである。今や、日本社会の構造的変で学識の問題ではなかったはずである。今や、日本社会の構造的変に対していまれる。

ればならないのである。 こういう変化を見逃して、古い固定観念で、博物館を考えてはいてらいう変化を見逃して、古い固定観念で、博物館を考えてはいているのが変化を見逃して、古い固定観念で、博物館を考えてはいればならないのである。 は物館 こういう変化を見逃して、古い固定観念で、博物館を考えてはいればならないのである。

専門博物館

ある。 れはむりである。 ういうものを一括して、すべて同じ考えで処理しようとしても**、** そのほかに、 れているのである。博物館またはそれに準ずるものという中には、 館、偉人の顕彰記念館のたぐいにいたるまでさまざまなものが含ま いう中に、巨大な総合博物館から、各種の専門博物館、郷土 資料 いの範囲のひろい概念であって、 思っている。 私は、博物館というものには、 幼稚園、 学校という中には、 美術館、動物圏、植物圏、水族館まで入っている。 それに各種学校まで含まれる。同じように、 「博物館」という語は、ちょうど「学校」というくら それぞれの特質に応じて、 大学、高専から、 多種多様のものを含んでいるので いろいろなものがあってもい 考えて行かねばならな 高校、中学校、 博物館と 小学 いと そ ح

民がこれを利用する。大学ではないにしても、高度の研究能力を備えた単科大学であると大学ではないにしても、高度の研究能力を備えた単科大学であると国立民族学博物館は、学校でいえば、やはり大学に当たる。総合国立民族学博物館は、学校でいえば、やはり大学に当たる。総合

館機能の一部であって、ほかにまだ、必要なものが さまざまな付属物が必要なのである。 考えは、 という固定観念は困まる。 人が多い。そういう博物館もあってもい 日本では、 博物館というと、 教室さえ建てれば大学ができるというに等しい。 博物館と言えば、東京国立博物館をはじめ、京都、奈良 ガラス・ケ 陳列場さえあれば博物館ができるという スの並んだ陳列場を思い浮かべる 一般的に言って、 いが、 博物館とは陳列揚だ っぱいある。 陳列は博物 実際は、

めから性格を異にする。

会と書物を提供しようという一般公共図書館とである。両者は、始会と書物を提供しようという一般公共図書館とである。両者は、始を主とするもので、もう一つは、市民にできるだけ豊富な読書の機を主とするもので、もう一つは、市民にできるだけ豊富な古文献の保存図書館にも、類似の二系統がある。一つは、貴重な古文献の保存

あろう。

る博物館も少なくない。

が置かれていて、博物館としてはたい

しか

の国立博物館のイメージが思い起こされることが多いようである。

- 62 -

これらの博物館は、古美術そのほかの文化財の保護に重点

へん特殊なものというべきで

一方では、まったくの啓蒙、社会教育に重点のおかれてい

一般に公開され、公衆の利用に供されるのであるが、単に読書の普でいえば、専門図書館とでもいうべきものである。もちろん、広くところで、ここに第三の型がありうるのである。それは、図書館

的に専門化せざるをえない。は、すべての種類の図書を集めることはできないから、それは必然報要求に応えようとするものである。高度の要求に応える た め に及奨励というに留まらず、あらゆる知的水準にわたって、市民の情

は、世界の諸民族の社会と文化に関する、専門博物館なのである。は、世界の諸民族の社会と文化に関する、専門博物館なのである。それ博物館は、まさにそのような博物館を目指しているのである。国立民族学館、啓蒙的社会教育を主とする博物館のほかに、市民の高度な知的館、啓蒙的社会教育を主とする博物館のほかに、市民の高度な知的館、啓蒙的社会教育を主とする博物館のほかに、市文化財保護の博物館、

違うものであるかもしれない。 現代の市民の非常に高度化した知的要求に応えるためには、単に ショウ・ケースに標本を陳列するだけではとうてい、不十分であっ で、そのほかの文献、映像、音声、そのほか各種の資料を総合的に 収集、保管することを考えなければならない。それは、一種の総合 の経済を終わればならない。それは、一種の総合 で、そのほかるするでは、単に

進させる力となるものであることは、 設されるべきであると信じている。それは、 門博物館こそが新しい社会のための、 私はしかし、 ーである。 市民のための学術振興を目指すものである。 今後は、 学術振興という点からいえば、特定の研究者 このような分野別の総合資料館としての専 そのまま、 言うまでもない 新しい施設として、 専門家の研究をい ある意味では開かれた 、っそう推 そして、 次々と建

(国立民族学研究博物館(仮称)創設準備室長)

万国博ホール 医族学博物館建設予定地 万国博美術館 / みずすましの池 大地の池 É 医苔癣 一一夢の池一 大屋框 鉄鋼路 太陽の均 大阪中央環状道路→ 千里橋 ←中国総賞道 エキスポランド 記念館 日本万国博覧会記念協会

建設予定地

編 集 後 記

子どもの教育に学校・ 家庭・社会が果たすべき役割 井坂 行男

(座談会)

これからの学校外教育に期待するも (出席者) 栗原 山本 一登・西 和代・(司会) 義之· 松原

諸岡

和房

治郎

0 0

日本の家庭と子ども 社会教育主事の今昔

大野連太郎

小堀

解

社会教育主事給与の国庫補助

沢田

崎

少年自然の家の指導と運営

家庭教育相談事業の現状と課題

茨城県社会教育研修 〔現地ルポ〕 七 1

B

社会教育指導員 0 現状

社会教育局社会教育課

志熊

敦子

檜山俊六郎

「文部時報」

2月号

第1161号

著作権 所 有 省

昭年49年2月5日 印刷 昭年49年2月10日 発行

株式会社 帝国地方行政学会 東京都中央区銀座7丁目4番12号 (郵便番号 104)

(営業所) 東京都新宿区西五軒町52番地 (郵便番号 162) 電話 東京 (268)2141(代表) 振蕾口座 東京 161 番 印刷所 株式会社 行政学会印刷所

定価 100円 (〒20円)

1200円(〒共)

- * ただし、増大号、臨時号の場合は別に代 金を申し受けます
- たはもよりの書店にお願いします

MEJ 5161 月刊

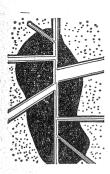
* なお、購読の申し込みは、直接営業所ま

文部時報

第1172号

昭和50年1月

科学政策の視点を考える ・ 木田 宏	2
▷座談会◁	
日本の研究環境をめぐる諸問題	11
(出席者) 石坂 公成・酉 義之・野村 民也	
(司会) 笠木 三郎	
国立民族学博物館の誕生梅棹 忠夫	32
学術の国際交流・・・・・・・・・・・・・・・・・・松田 智雄	39
学術情報流通体制の調査から帰って藤原 鎮男	46
<解説>	
宇宙への夢大林 辰蔵	53
太陽をとらえる・柴田 俊一	60
<資料>	
第18回ユネスコ総会報告大塚 喬清	66
<現地ルポ> 親に似る蛙・似ぬ蛙松尾 博之	70
親に似る蛙・似ぬ蛙松尾 博之 (文部省の窓)	72.
昭和49年度文部省関係補正予算大臣官房会計課	78
高校進学率90%を超す・・・・・・・・・・・大臣官房調査統計課	82
長期欠席児童・生徒実態調査の概要	04
初等中等教育局特殊教育課	84
[随想]	
私の歩んだ研究と時代的背景高橋 亀吉	86
〔国立青年の家紹介⑤〕	-
国立大洲青年の家自石 君男	90
文部省重要遙達一覧	95
昭和50年使用表紙図案入選者発表	77



梅棹忠夫

国立民族学博物館の設立

国立民族学博物館については、まえにこの『文部時報』国立民族学博物館については、まえにこの『文部時報』という題で、解説記事をかいたことがある(昭和四九年二月号)。そのときはまだ博物館が創設されていなかった。機構としては、国立民族学研究博物館の構想」という題で、解説記事国立民族学博物館については、まえにこの『文部時報』

は、すでに設計がほぼ完成し、三月には工事がはじまる予定に、すでに設計がほぼ完成し、三月には工事がはじまる予定になった。初年度の定員は三十名。全員が大阪府吹田市万国博になった。初年度の定員は三十名。全員が大阪府吹田市万国博になった。初年度の定員は三十名。全員が大阪府吹田市万国博になった。世物はまだできていない。公園内の、万国博記念ただし、建物はまだできていない。公園内の、万国博記念ただし、建物はまだできていない。公園内の、万国博記念にだし、建物はまだできていない。公園内の、万国博記念にだし、建物は田和四十九年六月七日に正式に設置された。たて、博物館は昭和四十九年六月七日に正式に設置された。た

である。

民族学と民族誌学

のである。
民族学とは何か。今ここで、その厳密な学問的定義につい民族学とは何か。今ここで、その厳密な学問的定義についただいて、

しここで、民族学あるいは文化人類学を理論的に研究しよう国立民族学博物館は、その民族学の博物館であるが、しか

が少なくない。 壁の目的とするところは、むしろ、世界の諸民族の文化の特館の目的とするところは、むしろ、世界の諸民族の文化の特の中には、この Ethnography という名のほうがいっそうよりは、民族誌学 Ethnology というの中には、この Ethnography の系統の名を名のっている例の中には、この Ethnography の系統の名を名のっている例の中には、 Ethnography の系統の名を名のっている例の中には、 Ethnography の Ethnology という Ethnography の Ethn

を持つことになっている。そのうち、 少なさにゾッとする。例えば、 ければならないのだということを考えると、 の学問の研究所としては、部門数も人数も異例に多いように 定員百三十三名、 は、東アジアとか、 一見みえるが、 (学科) 別になっているのは、民族技術、 我が国立民族学博物館は、 コンピュータ民族学の四部門だけで、 実は、これだけの人数で全世界を相手にしな うち研究スタッフは六十八名である、 ョーロッパとか、地域別になっている。 完成すれば、二十一の研究部門 いわゆるブラック いわゆるディシプリン 民族芸術、 あとの十七部門 むしろその数の ・アフリ 民族言 単一

は、おそるべき程度に達すると覚悟しなければなるまい。わなければならないのである。一人当たりの学問的負担荷重だけでも数百の民族があるが、それはたった三人でたちむか

知識の集積

日本では従来、学問というものを、とかくディシプリン(学科)だけでとらえる傾向が強い。地域別、国別、あるいない。それは、研究者自身にもないし、世間一般にもないのない。経済学、社会学、心理学の研究といえばだれでもナである。経済学、社会学、心理学の研究といえばだれでもナットクするが、インド学、ポリネシア学、バンツー学をやっていますといったのでは、通用しないのである。

たのではないか。あるいは、気がついていても、その蓄積量であったな量の知識の集積のことには、あまり気がつかなかって、その学問の、大きな欠陥であったように、わたしはみていいのに急であって、その学問的成果をうみだすもとになった、のに急であって、その学問的成果をうみだすもとになった、のに急であって、その学問が表している。

のではないかと想像する。本でも同様の努力をすることをはじめから放棄してしまったのあまりのものすごさに、とてもマネはできないとして、日

である。 しかし、もともと学問とは、具体的な知識の集積とその集積された知識の体系化のことではなかったか。事実に関する けを学びとることは、急速に学問をある水準まで押し上げる には、確かに有効なやり方ではあろうが、しょせんそれは教 とは、確かに有効なやり方ではあろうが、しょせんそれは教 を基礎から蓄積してかからねば、学問はものにならないのである。

それは極東文明圏、中国とその周辺だけではないか。それさの蓄積をつくりあげていたのである。インドについて、イスの蓄積をつくりあげていたのである。インドについて、イスの蓄積した知識の量は、全くあきれるばかりのものがある。日本がある程度その集積の量を誇れる地域があるとすれば、日本がある程度その集積の量を誇れる地域があるとすれば、日本がある程度その集積の量を誇れる地域があるとすれば、

ではないか。えも、日本のシナ学はフランスのそれにはかなわなかったの

知識の集積装置としての博物館

も比較にならないというのが、正直なところであろう。 博物館などの、情報蓄積装置がその例である。日本にも、 北アメリカ諸国などと比べると、ところどころに意外な欠落 れらの施設がないわけではないが質的にも、 部分があるのに気がつく。 とともに、地球上の最高の段階にまで達していることは疑い である。文書館、図書館、 現代の日本の文明は、 知識の集積のためには、 いれない。 しかし、 その細部について、 ョーロッパおよび北アメリカのそれ さきにあげた、 博物館などがその機能を果たす。 当然のことだが、集積装置が必要 文書館、図書館、 ヨーロッパおよび 量的にも、 とて そ

ことには、全部を通じて、蓄積装置の発達が悪い。大学、研などの情報活動もきわめて盛んである。しかし、おもしろいながの情報活動もきわめて盛んである。しかし、おもしろいなどの情報活動もきわめて盛んである。大学の数はアメ

密所から、放送会社、新聞社にいたるまで、全ての情報取り 第的にも人材的にも極めて冷遇されているのが普通である。 算的にも人材的にも極めて冷遇されているのが普通である。 にどまでに情報のながれのなかに生活しながら、しかもこれ にどまでに情報のながれのなかに生活しながら、しかもこれ はどまでに情報のながれのなかに生活しながら、しかもこれ はどまでに情報のながれのなかに生活しながら、しかもこれ はどまでに情報のながれのなかに生活しながら、しかもこれ はどまでに情報のながれのなかに生活しながら、しかもこれ はどまでに情報のながれのなかに生活しながら、しかもこれ はどまでに情報のながれのなかに生活しながら、しかもこれ はどまでに情報のながれのなかに生活しながら、しかもこれ

と同じパターンのものであろうか。でストックが乏しいのである。日本の学術もまた、日本経済を求めるならば、情報・知識は日本においてはフローばかりを求めるならば、情報・知識は日本においてはフローばかり

ば ある。繰り返しいうが、一つの文明国において、 0 書館が、これほどまでにひどい状態で捨てておかれていると をたくさんつくらねばならないであろう。博物館と図書館で の特徴だなどと、 いうのは、 日本学術の振興のためには、まず、 なるまい。すべてフロー化しストックにならないのが日本 水準をたもたしめるためには、 全く驚きである。日本の学術をして世界 0) んきなことをいっておられるときでは 基礎的条件の整備を急がね 情報・知識の集積装置 博物館と図 一級

りにされていたのであるから。

報集積機能のことを忘れてはいけない。学術にとっては、そ それも間違いではないが、もう一つの重要な機能として、 の点がもっともたいせつである。 、ぜいのところ社会教育機関であるとみられることが多い。 博物館は、 日本では普通、 古物収蔵庫であり、 あるいは +

とするものである。 なのである。 機関として性格づけられていることは、まさにそういうこと には国立学校設置法の中に位置づけられ、国立大学共同利用 ようという意図をもって設立された。この博物館が、法律的 我が国立民族学博物館は、 それは、 教育とともに、学術研究をもその任務 まさにそのような要請にこたえ

次々に、 文・社会科学系の諸学問の基礎条件づくりに、大いに役立だつ 本の人文・社会科学が大繁栄するなどというものでは 国立民族学博物館は、日本の学術の振興のための、特に人 この種の機関がつくられねばならないだろう。 しかし、当然のことながら、これ一つでたちまち日 ままでの日本では、 情報・知識の集積装置はなおざ ない。 それ

球 時

る。 った事件の影響が、たちまちにして全地球に波及する。 世界はすでに「地球時代」に入った、とわたしは考えて 何ごとも片づかなくなってきた。地球上のどこかで 国と国との間の、 バイ・ナショナルな「国際関 係」で V

そういう国は、地球上の、自国以外の国について、 は、 そのような「大国」の一つとなってしまっていることは、 る。そして、好むと好まざるとにかかわらず、 味はないというナルシシズムは、 深い関心を払っていなければなるまい。自分のこと以外に興 たほかの地域に対して大きな影響を及ぼしやすいのである。 めざるをえないであろう。 多数の人口を抱え、 地球上のあらゆる地域でのできごとから影響をうけ、 巨大な経済力を持ったいわゆる 大国には許されないのであ 日本もまた、 いつでも 認

— 36 **—**

持っていなければならないのである。 要するに、 地球上のありとあらゆる地域につい 南半球の、 あるいは西 て 関心を

半球のはるかにとおい国々も、関係の深さにおいては、 では隣国と変わらないかもしれない。 今日

などのすべていとなみの基礎になるものであろう。日ごろか をおこたらぬこと。それは、現代における政治、経済、 かたより、解釈の誤りをまねくだろう。 地球上のすべての地域についての知識を集積し、 世界の各地に目をひらいておかないと、 たちまち情報の その研究 外交

立されたものではない、ということである。国立民族学博物 関である。 国立民族学博物館はそれらの応用的な課題の解決のために設 に対しては、 国立民族学博物館は、 しかし、 外交に対して有益な情報を提供できるようになるであ 世界諸民族の社会と文化に関する基礎的研究を行う機 政治・経済・外交などの、 間接的な関係しか持てないのである。 ここでことわっておかねばならないことは、 もちろんそのような、 応用的・実際的な問題 日本の政治、

工学部では、 科学技術についても、 純粋に学問的な興味から、 その学理に基づく応用研究が行われる。 同じようなことがある。大学の理学 基礎的研究が行われる。 さら

> に 応用までの間には、何段階もの研究が必要なのである。 研究が必要である。 その技術を実用化するためには、 このようにして、基礎的研究から実際 各企業の中央研究所 0

階である。それに続いて、 化に関する基礎資料を取り扱う。それはいわば、理学部的段 らないのではないか。 積をはかるために、 の組織づくりが、考えられなければならないであろう。 そういう点から考えると、 いまや、 国立民族学博物館は諸民族の社会と文 いわば工学部的段階に当たる研究 早速に次の手をうたなければ 世界の諸地域に関する知識の集 15

国民文化研究

はまだよくわからない。例えば「東南アジア研究」というよ 域学会の成立と活動は、 るのかもしれない。アフリカ学会やアメリカ学会のような地 具体的には、それがどういう形態のものになるの なひろがりをもつようになっている。 いわゆる「地域研究」が、世界各地をおおうようにな もはや世界的な傾向であり、 また国 ٧v ま

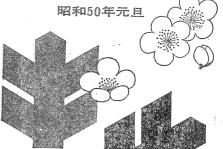
かし、もう一歩をすすめて、 あるいは、 9 9 0 国

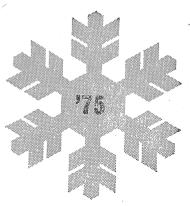
を単位とした研究が必要になってきているのかもしれない。を単位とした研究が必要になってきているのかもしれない。学の地域で、民族を超えて、国民形成、あるいは国民文化形成が進行しつつあるのである。そのような、国あるいは国民文化形成が進行しつつあるのである。そのような、国あるいは国民文化形成が進行しつながりうるものである。そのような、国あるいは国民文化形成が進行しつながりうるものであることはいうまでもない。学解決につながりうるものであることはいうまでもない。学解決につながりうるものであることはいうまでもない。学解決につながりうるものであることはいうまでもない。学知の「国民文化」研究を前提にしてはじめて可能となるのではないだろうか。

(国立民族学博物館長)



昨年中は格別のお引き立てをい ただきありがとうございました 本年も倍旧のご愛顧を賜わりま すようお願い申し上げます





文部省大臣官房「文部時報」編集係

株式会社 うせい

MEJ 5172

月刊

「文部時報」

1月号

第1172号

編 集 後 記

著作権

所 有 発行所

株式会社ぎょうせい

(帝国地方行政学会)

本 社 東京都中央区銀座7丁目4番12号 (郵便番号 104) (営業所) 東京都新宿区西五軒町52番地

(郵便番号 162) 電話 東京 (268) 2141 (代表) 振替口座 東京 161番

印刷所 株式会社 行政学会印刷所

省

昭和50年1月5日 印刷 昭和50年1月10日 発行

定 価 130円 (〒20)

年間購読料 1560円(〒共)

- * ただし、増大号、臨時号の場合は別に代金を 申し受けます
- * なお、購読の申し込みは、直接営業所または もよりの書店にお願いします

文部時報 昭和53年2月 第1209号

▒ 特 集・民族文化と国際理解 ▒ ─────			
民族文化と国際理解について 増田 参	郎	2	
国立民族学博物館の開館にあたって			
国立民族学博物館の社会的意義 梅棹 忠	き	9	
▷座談会◁			
国立民族学博物館と市民の期待		16	
(出席者) 梅棹 忠夫・川添 登			
湯浅 翻子。<司会>七田 基弘			
民族学博物館と学校教育祖父江村	差男	32	
<資料>		-	
国立民族学博物館の組織と活動 宮本 9	答雄	39	
〈解説〉			
海外の民族学博物館佐々木7	氢明	46	
文化の厚さ岩村	忍	53	100
	盛雄	58	1100
■ 昭和52年度 学校基本調査結果 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	調査組	充計課	65
(海外教育ニュース)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・大臣官房	調査組	流計課	88
就学前教育・保育行政の連携が必要(イギリス)			
昭和52年度 学校基本調金結果 (海外教育ニュース) 大臣官房 (海外教育ニュース) ボ学前教育・保育行政の連携が必要(イギリス) 遠隔大学(通信制大学)の現況(西ドイツ) (文部省の窓) 第3次教員給与改善(第1回分)の実施 初等中等教 新設私学の経営基盤の確保 管理局			
〔文部省の窓〕			
第3次教員給与改善(第1回分)の実施初等中等教	育局	財務課	90
新設私学の経営基盤の確保・・・・・・管理局	企画	調整課	92
[随想] インドネシアに旅して松田	敏	江 73	3
〔法人紹介〕 財団法人 関西地区大学セミナーハウス		77	7
(連載第17回)			Ē
人物を中心とした体育・スポーツ郷土史 <愛知県>江口	真	→ 81	
電が関ニュース・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		94	4
昭和53年表紙図案入選者発表		8′	7 📱



国立民族学博物館の 社会的意義

はじめに

れているし、さらにそのあとの長期計画も構想されているしたのである。これからまだ第二期、第三期の工事が予定さめられていたのだが、ようやくその建築の第一期工事を完了国立民族学博物館が開館した。数年まえから建設工事がすするのほど、大阪府吹田市千里の万国博記念公園のなかに、

梅棹忠夫

開というはこびになった。
開というはこびになった。
開というはこびになった。

されたのは、昭和四十九年六月のことである。それ以来、ずじつは、この国立民族学博物館という機関そのものが創設

ある。

制度的な性格について、かんたんに説明をこころみたい。なってはじめてこの博物館がうごきだしたということではない。創設後数年、しかも未完成のままでの「開館」とはいったいどういうことであるのか。この「開館」とはいったいどういうことであるのか。この「開館」とはいったいどういうことであるのか。この「開館」とはいったいどういう意味なのか。その点をあきらかにすることが、この博物館の社にの情報にある。

二つの機能

要立民族学博物館は、国立大学共同利用機関の一つとして 国立民族学博物館は、国立大学共同利用機関の一つとして 国立民族学博物館は、国立大学が共同で利用するため が博物館の名を称しながらも、その研究部には、教授・助教 が博物館の名を称しながらも、その研究部には、教授・助教

物館研究報告』(年四冊刊行)などとして公刊されている。物館研究報告』(年四冊刊行)などとして公刊されている。館の創設と同時にはじまった。あたらしい建物ができあがる館の創設と同時にはじまった。あたらしい建物ができあがるの。市に間がりしながらではあったが、研究活動は着実にすすめられていたのである。すでにその一部は、『国立民族学博物館の活動は、おなじ公園のなかの、万国博記念協会本部の建物の活動は、おなじとして公刊されている。

されているのであるが、国立民族学博物館は、 すこしだけちがった点がある。それは、この国立民族学博物 して設置されているのである。 育活動の推進に資するための国立大学の共同利用の機関」と おける学術研究の発展及び資料の公開等一般公衆に対する教 発展に資するための国立大学の共同利用の機関」として設置 学共同利用機関というのは、「国立大学における学術研究の は、法律的にも明記されている。法文によれば一般の国立大 館が公衆との接点をもっているという点である。 一つではあるけれど、このカテゴリーに属する他の機関と、 このように、 国立民族学博物館は国立大学共同利用機関の 前半はおなじだが、 「国立大学に そのこと 「資料の

- 10 -

わわっている点がちがっている。
公開等一般公衆に対する教育活動の推進」というのがつけく

的に二つの面をもたざるをえないのである。 解を収集し、保管し、及び公衆の観覧に供するとともに、民料を収集し、保管し、及び公衆の観覧に供するとともに、民料を収集し、保管し、及び公衆の観覧に供するとともに、民料を収集し、保管の書で民族学博物館を置く。」 つまり、民族資料の収集・め、国立民族学博物館を置く。」 つまり、民族資料の収集・は、国立大学の教員その他に、民族学に関する資

「開館」の意味

まえからそこで仕事をしていたのである。の施設として、数年前から建築の工事がすすめられてきた。の施設として、数年前から建築の工事がすすめられてきた。国立民族学博物館は、このような二つの機能をはたすため

族資料の収集、保管および公開のためには、特別の展示施設問題は、一般公衆の教育活動の推進という機能である。民

た。これが「開館」という言葉の意味なのである。がった段階で、その部分を一般市民に公開すること に なっ完成から数カ月にしてできあがった。それがいちおうできあと、それにともなう諸設備が必要である。それも、研究室の

る。 したがって、このあたらしい建物のなかで、「開館」によって、法律にさだめられた二つの機能、すなわち学術研究よって、法律にさだめられた二つの機能、すなわち学術研究と公衆教育とが、両方ともでそろった、ということなのである。

— 11 **—**

いてはべつの機会にのべることを約束した。今回はそれをうむ民族学博物館の構想」という一文をかいたことがある(『文立民族学博物館の構想」という一文をかいたことがある(『文立民族学博物館の構想」という一文をかいたことがある(『文立民族学博物館の構想」という一文をかいたことがある(『文立民族学博物館の構想」という一文をかいたことがある(『文立民族学博物館の構想」という一文をかいたことがある(『文本の文中で、「社会教育上あるいは学校教育上の意義」についてはべつの機会にのべることを約束した。今回はそれをういてはべつの機会にのべることを約束した。今回はそれをういてはべつの機会にのべることを約束した。今回はそれをういてはべつの機会にのべることを約束した。今回はそれをういてはべつの機会にのべることを約束した。今回はそれをういてはべつの機会にのべることを約束した。今回はそれをういてはべつの機会にのべることを約束した。今回はそれをういてはべつの機会にのべることを約束した。

いよ、。 後の研究課題としてのこされているので、今回はそれにはふ物館とのつながり方については、はなはだ問題がおおく、今物館とのつながり方については、はなはだ問題がおおく、今りに、この博物館のもつ第二の機能、すなわち公衆教育を中

展示施設

れる。
たの博物館における公衆教育の機能は、さきにのべたところでもあきらかなように、主として展示施設によって遂行さ

館者の数が十万人をこえたのである。
にの関心をよんで、開館後わずか一ヵ月あまりの昭和五十市民の関心をよんで、開館後わずか一ヵ月あまりの昭和五十市民の関心をよんで、開館後わずか一ヵ月あまりの昭和五十市民の関心をよんで、開館後わずか一ヵ月あまりの昭和五十市民の関心をよんで、関館後わずか一ヵ月の昭和五十年の関心をよって、

示である。展示場における地域展示は、オセアニア、アメリーのであり、もう一つは、ビデオテークにおける映像音響展がらなりたっている。一つは、いわゆる展示場における地域この博物館における展示施設は、おおわけして二つの部分

カりで地球を一周することになる。もっとも、現状では東アシア、東アジアの九つにわけられている。一巡すると、東まジア、東アジアの九つにわけられている。一巡すると、東まジア地域で実際に展示されているのは日本文化だけで、中国ジア地域で実際に展示されているのは日本文化だけで、中国がア地域で実際に展示されているのは日本文化だけで、中国がア地域である。インド、パキスタンなどの南アジアもない。現在、展示は、さらに四ブロックの増設が必要である。そのうち、といる。 には、さらに四ブロックの増設が必要である。そのうち、とりあえず第二期工事分として、一ブロックの増設が計画されている。

諸民族の文化と生活の実況をしることができる。展示場では主として標本資料とパネルなどで展示がおこなわれているのに対して、ビデオテークは、映像と音響によるわれているのに対して、ビデオテークは、映像と音響によるに自動的にうつしだされる。観覧者はそれによって、世界のほの文化と生活の実況をしることができる。

国立博物館などの文化財保護を目的とする博物館とは、たいこの国立民族学博物館は、国立の博物館ではあるが、東京

へんちがっている点がある。 とはける展示物は、原則として文化財ではない、という点でにおける展示物は、原則として文化財ではない、という点で関することによって、公衆教育を推進しようとしているのである。さきに、この博物館の二つの機能についてのべたが、ある。さきに、この博物館の二つの機能についてのべたが、ある。さきに、この博物館の二つの機能についているのである。

市民の大学

ば、それは「ひらかれた市民の大学」というべきであろうか。との国立民族学博物館は、はじめにのべたように、国立大の学生をかかえた閉鎖的な組織である。この国立民族学博物の学生をかかえた閉鎖的な組織である。この国立民族学博物の学生をかかえた閉鎖的な組織である。この国立民族学博物の学生をかれているうえに、その公衆教育という機能では、完全ひらかれているうえに、その公衆教育という機能では、完全の方かれている。特定の学生がいないかわりに、一般市民がいるのである。これを大学の一種というならに、国立大との対策を

模な講演会の開催、 機能しようとすれば、どうしてもやらなければならない 文のなかには明示してないが、この博物館が市民大学として 座の開催である。そのことは、この博物館の設置をきめ さいに企画されているのである。たとえば、定期的な市民講 分をしめるものではあるけれど、公衆教育活動はそればかり る「ひらかれた市民の大学」としての機能のなかで重要な部 研究の基礎の上にたつ博物館としては、当然のことである いくつものセミナー室が用意されている。 ではない。そのほか、さまざまな活動が期待され、またじ この性格は、この博物館の設立の構想のごく初期のころ 講堂の建設が予定されている。 この場合、学術資料の展示・公開は、この博物館におけ 関係者のあいだでかたりつがれてきたものである。 じっさい、すでに博物館の建物のなかに 映画の上映、民族芸能の公演などの さらに、やや大規 は、 大小 事業 た法 2

— 13 **—**

国際理知

ば、この大学は市民にどのような種類の知識・教養をあたえこの博物館が、「ひらかれた市民の大学」である とすれ

この博物館の社会的意義についてかたることにもなるであろことができるか。この疑問にこたえることは、そのまま、ようとするものであろうか。市民は、この大学から何をまな

種類のものである。

種類のものである。

この博物館はもともと、民族学の研究のための博物館であいだで予想され、あるいは期待されていた効果には、すくないだで予想され、あるいは期待されていた効果には、すくないだで予想され、あるいは期待されていた効果には、すくなくとも二つの種類のものがある。一つは、国際理解に関するくとも二つの種類のものがある。一つは、国際理解に関するものであり、もう一つは、人間性への目ざめとでもいうべきものであり、もう一つは、人間性への目ざめとでもいうべき種類のものである。

本国政府は日本国家のおかれている現在の国際的状況のなかで、調査会議の時代に作製された「基本構想」のなかに、明の、調査会議の時代に作製された「基本構想」のなかに、明の、調査会議の時代に作製された「基本構想」のなかに、明の、国際理解については、すでにこの博物館の創設前

事実である。
事実である。

事実である。

また、という意識で仕事をすすめてきたことものであろう。また、この博物館創設の実務に関係 し た 人 たのであろう。また、この博物館創設の実務に関係 し た 人 たのような時代的要請がつよく存在することを感じとっす。

である。 さいわいにして、その意図は成功しつつあるように みえる。この博物館における観覧者たちの反応をみていると、た 多様性を実感をもってしり、異民族・異文化への理解をいち 多様性を実感をもってしり、異民族・異文化への理解をいち じるしくふかめてゆくありさまが、あきらかに観察されるのである。

感性の目ざめ

対して、人間性のそれは、むしろ求心的な内面の教養にかかが、国際理解の問題がいわば遠心的な知識の問題であるのにさきの国際理解の問題と、究極のところは一致するのであるっての博物館のもたらす社会的効果として予想されるもう一

わるところのものである

われわれの感覚や論理は、つねに外部からの刺激がないと、日常生活の無感動なくりかえしになずんで、たちまちにと、日常生活の無感動なくりかえしになずんで、たちまちにと、日常生活の無感動なくりかえしになずんで、たちまちにをつきくずし、人間的教養の飛躍的な拡大をうながす。民族をつきくずし、人間的教養の飛躍的な拡大をうながす。民族をできくずし、人間的教養の飛躍的な拡大をうながす。民族をできくずし、人間的教養の飛躍的な拡大をうながす。民族をつきくずし、人間的教養の飛躍的な拡大をらながである。異様だけでなく、みずからの感性の拡大をはかることができるのである。

性的というよりも感性的にうけとめ、それを芸術の分野においる非ヨーロッパの芸術に深刻な影響をあたえたといわれが、ヨーロッパの共術に深刻な影響をあたえたといわれが、ヨーロッパ世界の人間のつくりだした品物のかずかずかでいる。 かが国においても、国立民族学博物館は、すでに半世紀もまえかョーロッパ諸国の民族学博物館は、すでに半世紀もまえか

(国立民族学博物館長)

〔特集・ 児童生徒の健康増進)

座 子どもの健康と体力 談 会

東

俊郎

たくましい子ども (出席者) 平井 石井 を育てるには 信義・柳川

<司会>船川 幡夫

健康増進と保健教育

子どもの事故と安全の管理・ 児童生徒の精神の発達と健康 指導

学校事故の <解説> <資料> * 救済制度の改善について

体育局学校保健課

児童生徒の事故災害 (学校事故,交通事故)

、現地ルポン

たくましい子どもの育成をめざし 滋賀県浅井町浅井西小学校 7 児童生徒の健康状況 (疾病・ 発育・体力)

体育局学校保健課 体育局学校保健課

昌弘

覚治 清子

高石

玉井 南 収介

黒田 芳夫

哲

◆今月号は、昨秋、万国博の跡地に民
ぐ今月号は、昨秋、万国博の跡地に民
で、その紹介をかねて、「民族文化と
国際理解」を特集しました。
巻頭には、増田先生に広い視野から
「民族文化と国際理解について」論じていただき、民族学博物館の社会的意義」を明らかにしていただきました。
国で、その紹介をかねて、「民族文化と国際理解について」論じていただきました。民博の部の神神館長には座談会にご登場を願ったほか、「国立民族学博物館の社会的意義」を明らかにしていただきました。民博の社会的意義」を明らかにしていただきました。民博のもつ画期的な意義をお伝えできたものと自負いたしております。

「居支紙図案の当選発表を本号の八七百に掲載しております。来年もまたよるって御応募ください。

◇一年を通じて最も寒い季節になってまいりました。今年は、ソ連風邪だとか、香港型ビールスだとか、インフルエンザの国際的な流行の年のようですが、読者の皆様にはお変わりなくお過しでしょうか。 集 後

編 記

「文部時報」 2月号

省

第1209号

部

昭和53年2月5日 印刷 昭和53年2月10日 発行

(〒33円) 定価 180円

年間購読料 2160円 (千共)

- * ただし、増大号、臨時号の場合は別に代金を 申し受けます
- * なお、職読の申し込みは、直接営業所または もよりの書店にお願いします

ME J

溜作権

所 有

昭三

月刊

5209

株式会社ぎょうせい 発行所

本 社 東京都中央区銀座7丁目4番12号 (郵便番号 104) 東京都新宿区西五軒町52番地 (営業所) (郵便番号 162) 電話 東京 (268) 2141 (代表) 振替口座 東京 9 - 161番

印刷所 株式会社 行政学会印刷所